

教会創立103周年

週報

2026年1月11日 5376週

【 今年度のテーマ・聖句 】

「共に喜ぶ」

一ハレルヤ わたしの魂よ主を讃美せよ—
わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っています。すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いがキリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分なのです。
(ローマの信徒への手紙 12章 4~5節)

卷頭言

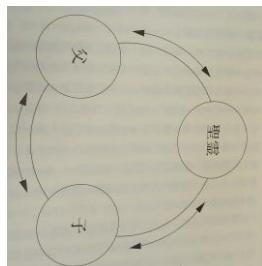
牧師 加藤英治

私に影響を与えてくれた本⑰

シャーリー・C・ガスリー『一冊でわかる教理』(一麦出版社、2003年)

これは、題名通り「キリスト教教理」、つまり教会で信じられ語られている事柄を、まとめて説明する本です。このような書物は大変多いのですが、その多くは「難しく面白くない」のが特徴です。その中でも、これだけは、私にとって大変面白く刺激的で、その上わかりやすいものでした。その特徴は、著者が自分の考えと言葉で、教理を「一から」考え、表そうと試みていることです。また、ただ自分の考えだけでなく、他の異なる立場によく聞きつつ、謙遜に自らをも問うていることです。

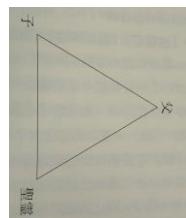
一番印象に残っているのは、「三位一体」に関する二つの考え方を、解で示してくれたことです。まさに一目瞭然です。私たちの多くは、右図一体をイメージしているのではないでしょうか。「父なる神」が「一番上」に支配していると考えるのです。それは、「神を、『彼』の支配下にあるすべてに限のない権力、支配、統制をもって君臨する最高の男性として理つながる」というのです。



ところが実は、下図のような三位一体理解も「東方正教会のそれ(三位一体)を表すもの」正教会の宗教美術においては、父、子、聖霊はしばしば、テーブルを囲んで食事をともにしている図として描かれている。」

また、「父、子、聖霊は、手を取り合い調和のとれた喜ばしい自由さを持って一緒に踊り回っている三人のダンサーのように考えられているのである。」

このような「三位一体」理解が、いったいどのような神理解の変化と、それに基づく人間理解の変化につながるのでしょうか。



文ではなく、図のように三位立ち、全てをてのものに對解すること」に

あるのです。
は円である。

(次回に続く)

日本バプテスト シオン山教会

〒803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

TEL:093-561-0772 Fax : 093-561-0760

E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

HP-address: <https://bapzion.com>



◆ 主日礼拝

午前 10 時 30 分

司会 庄司まり子執事
奏楽 田中由紀子姉

前 招	奏 詞	詩編 139: 1 ~ 5
頌 栄		668 (みさかえあれ(A))
主の祈り		(新生讃美歌の扉を参照)
交 讀	讃 美	30 (神のみわざ) 137 (うみべの野で)
聖 書		マルコ 2: 1 ~ 12 (新共同訳 63p 口語訳 53p)
祈 横		
子どもメッセージ		加藤英治牧師
讃 美	260 (み言葉もて 霊の火を)	聖歌隊
宣 教	「イエスは見て取られる」	加藤英治牧師
祈 横		
讃 美	510 (主の言葉の)	
獻 金		祈り: 酒井光子姉 (女性会C班)
頌 栄	679 (ベネディクション)	加藤英治牧師
祝 横		
奏 告		
報		

◎ 今月の聖句

「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。
わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る 天地を
造られた主のもとから。」
(詩編 121編 1 ~ 2節)

今月の当番役員

木村正美 磯部みゆき

本日の集会

教会学校

幼小科
10:30 ~ 11:40
中高科、青年・成人科
9:30 ~ 10:15

主日礼拝の当番

受付: 船津丸泰 田中登美子

木村正美(当番役員)

お花: 二木榮子

会堂清掃 礼拝後

新春放談会 12:00 ~ 13:30

◎ 今週の集会(1月11日~1月17日)

<聖書> マルコ 2: 23 ~
3: 6

14日(水) 祈祷会 I 10:30
祈祷会 II 19:30
(司会・奨励 加藤英治牧師)

今週の聖書日課と祈り

11日(日) マルコ 2: 1 ~ 12	林田義勝
12日(月) ルカ 5: 11 ~ 18	廣津陽子
13日(火) ルカ 5: 20 ~ 25	廣津丈
14日(水) フィリピ 4: 5 ~ 7	廣津菜々風
15日(木) 申命記 5: 12 ~ 15	廣津丈治
16日(金) 民数記 12: 2 ~ 15	廣津日夏海
17日(土) エフェソ 1: 22 ~ 23	藤岡幹隆